

私の工夫

主体的に学び合ひ子どもをめぐって
「わかった」「できた」と
実感できる家庭科授業の実践

岡山市立古都小学校

指導教諭 古門 幹恵



1 はじめに

5年生で初めて出会う家庭科の授業は、子どもたちにとって興味と意欲の高い学習の一つである。

中でも食に関する実習は、意欲的で家庭での継続的な実践にもつながってきている。一方で、製作にかかわる学習は、技能面での差が大きく、特にミシン縫いでは、自分の思いに反してうまく縫えず、だんだんと意欲が低下しがちである。

そこで、2年間を見通して「わかった」「できた」という小さな成功体験を積み重ねる実践的・体験的な学習活動を通して、技能を定着させるとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせなが

ら豊かな家庭生活を送ろうとする子どもを育成したいと考えた。

そのために、計画的に基礎・基本を繰り返し返すことで技能を定着させ、スモールステップでの成功体験を多く感じられるように単元計画や授業計画を立て、家庭実践につながるように意識している。

2 実践について

(1) 2年間を見通して

製作に関わる単元では、5年生の1学期に、手縫いで小物作りをする。そして、夏休みを利用してふきん作りを課題にし、運針技能と用具の安全な使い方の方の定着を図っている。また、2学期のミシン縫いでは、既製の製作物だけでは

く、コースター、マスク、マスク入れ（一部手縫いを含む）など、短時間で完成できる学習活動を取り入れ、達成感をもちながらミシン操作に慣れるようにしてきた。

6年生では、5年生の学習を生かし、1学期に修学旅行で使うナップザックを製作している。そして、2年間のまとめとなる3学期には、卒業を目前に、学校・家族・地域に対する感謝の気持ちを伝える総合単元的な学習活動の一端として、家族への感謝の気持ちを伝えるプレゼント製作の学習活動を計画した。

(2) 単元計画の工夫

① 何を作るか決める

家族の誰にどんなものをプレゼントしたいか、4〜6時間の製作時間で自分にも作れそうかななどを考え、全体で話し合った。また、実際に見本を見たりさわったりする時間も設定した。イメージをもつことで、子どもたちは見通しをもって自分が作りたいものを決めることができた。（昨年度：ティッシュボックスケース、弁当箱入

② 必要な材料を見積もる

作る物別のグループで、布の必要量・大きさ・素材について、中に入れるものと新聞紙・更紙・端切れ布等を使って、イメージしながら型紙を作り、ゆとりと縫い代の必要性も確認することができた。

③ 製作の見通しをもつ

作る物別のグループで、見本を裏返ししながら、手順と縫う箇所を話し合った。ワークシートに書き



写真1 製作見本

休日をはさみ一定期間を確保した。目安となる大きさや購入できる場所などを紹介するとともに、家庭への協力もお願いした。

子どもたちは、プレゼントする相手を意識して、布の色や柄を選んだようだった。

⑤ 製作実習

作業開始時は、グループごとに作業予定と進捗状況を確認し、本時のめあてを確認し

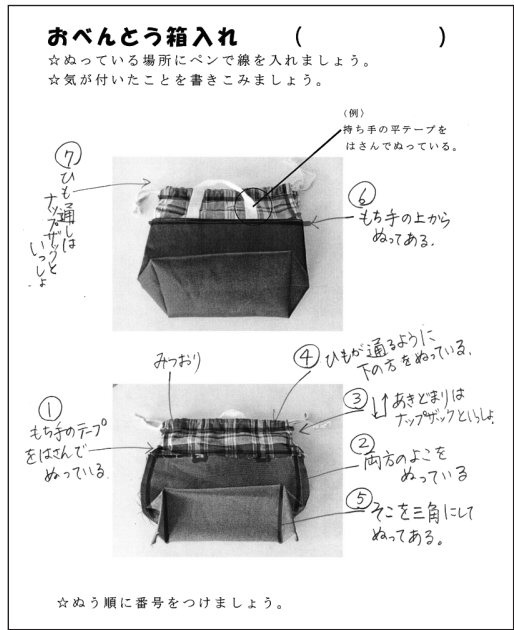


写真2 ワークシート

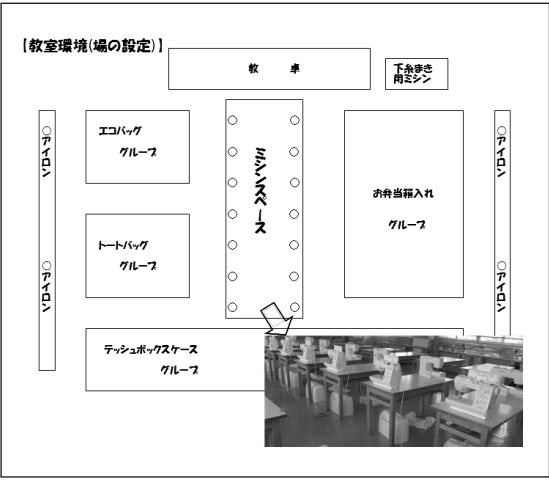


写真3 場の設定



写真4 完成写真

込むことで、製作の見通しがもてるようにした。(写真2)

④ 材料の準備 (課外)

個々に材料を準備するため、

した。また、ミシントラブルによるタイムロスを避けるため、点検と試し縫いを授業前に行うようにした。

た。特に、作業が滞りがちな子どもを助け合えるように声をかけ、優先的にミシンが使用できるようにした。

技能面では、ミシン縫いの手順をカードで示し、縫いの返し縫いを徹底的に返し縫いを徹底した製作物と手紙を渡す。子どもたちは、自分で選び、自分で製作した作品を渡して、家族が喜ぶ様

⑥ 感謝の気持ちを伝える

6年生は、2月の参観日に、親子活動として、「感謝を伝える会」をしている。そこで、ラッピング

教室環境として、作業や相談がしやすいようにグループ机を配置するとともに、ミシンスペース・アイロンスペースを設け、効率よく安全に作業ができるように配慮した。(写真3)

今回の学習は、すぐに家庭生活での実践につながるものではないが、自分で選び、大きさを決めた製作の手順を考えたりしたこと

はこれからの製作活動への大きな自信になったに違いない。

家庭科の学習内容は、日々の家庭生活ですぐに実践できるものが多い。また、家庭で経験して改めて気付くことも多い。できることが増えた子どもたちは、今までやってもらっていたことや何となく過ぎてきた家庭生活の中で、今度

は自分で課題を見つけ解決していくとすると、自ら考え主体的に取り組む姿が増えていくことを期待している。

そのためにもこれからも子どもたちが笑顔で「わかった」「できた」と実感できる授業の実践を工夫していきたい。

3 おわりに

4) 子に笑顔になり、達成感・満足感を感じていたようだった。(写真